

平成22年度 シラバス	学年・期間・区分	2年次・後期・必修	
	対象学科・専攻	機械・電子システム、電気情報システム、土木工学専攻	
技術倫理 (Engineering Ethics)	担当教員	中村隆文(Nakamura, Takafumi) 上小鶴博(Kamikozuru, Hiroshi) (技術士) 井内祥人(Iuchi, Yoshihito)(技術士) 門松経久(Kadomatsu, Tsunehisa)(技術士)	
	教員室	中村：一般教育科棟3階(Tel. 42-9043) 上小鶴・井内・門松：非常勤講師室(Tel. 42-2067)	
	E-Mail	中村：nakamura@kagoshima-ct.ac.jp 上小鶴：hiroshi_kamikozuru@yahoo.co.jp 井内：iuchi-yoshihito@pref.kagoshima.lg.jp 門松：t-kadomatsu@m-technos.co.jp	
教育形態 / 単位数	講義 / 2単位		
週あたりの学習時間と回数	〔授業(100分) + 自学自習(200分)〕×15回		
〔本科目の目標〕 科学技術発展の歴史を振り返るとき、科学技術はすべての人間に対して幸福をもたらしてくれたであろうか。あるいは、科学技術は地球環境(自然)との共存を果たしてきたであろうか。すべての科学技術者は、科学技術者である前に一人間としてこの地球上に存在する。人間は、地球という巨大な生命体の一部であるがゆえに、他の生命との共存を考えなければならない。また、人間社会において、ひとりひとりの人間は、他者を思いやる心もち、相手の立場に立ってもの考え、すべての人類の幸福を追求してゆかなければならない。そこで、本科目は、人間として不可欠な倫理観を身に付けること、すなわち、人間として、自然および社会に対して負う責任を自覚するとともに、科学技術と人間、自然との係わり合いを深く考え、人類の未来と自然との共存をデザインできる能力を身に付けることを主な目標とする。			
〔本科目の位置付け〕 本科目は、学生諸君が、将来、技術者として活躍する上で必要不可欠の科目であると同時に、学生諸君が本学で学んだ人文・社会科学から各専門科目までを含めた学問の総まとめとして位置付けられる。			
〔学習上の留意点〕 講義内容をよく理解するために、毎回、教科書等を参考に2時間程度の予習をし、授業時間での質問等に対応できるようにしておくこと。また、講義終了後は、復習として2時間程度の演習問題等の課題に取り組むこと。疑問点があれば、その都度質問すること。教科書等の指定はないが、各担当教員が配布する資料等に沿って授業が進行する。また、単元が終わる毎にレポートを提出してもらう。			
〔授業の内容〕			
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標	
1. 技術倫理総論(中村)	12	ベイズ主義などの確率論をもとに、「まともな判断とはどのようなものであるのか」という認識哲学上の基礎知識を学び、それがどのような形で実際の事例と関連するのか、そして、技術者として求められる「合理性」についての理解を深める。	
2. 技術倫理各論 (1) 社会に対する責任を自覚する技術者(建設土木業務における技術者倫理)(上小鶴)	6	建設土木の実務を通して、技術者が社会に対して負う責任を理解することができる。	
(2) 農業土木業務における技術者倫理(門松)	6	農業土木の実務を通して、技術者が社会に対して負う責任を理解することができる。	
(3) 森林土木業務における技術者倫理(井内)	6	森林土木の実務を通して、技術者が社会に対して負う責任を理解することができる。	
〔教科書〕 なし			
〔参考書・補助教材〕 授業時配布プリント等			
〔成績評価の基準〕 各担当教員の実施する試験またはレポート課題(各100点満点)の平均点で評価する。			
〔専攻科課程の学習教育目標との関連〕 4-2			
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 4-2			
〔JABEEとの関連〕 (b)			